第 1 号議案　2008 年度事業報告書

2008 会計年度 （2008.4.1 - 2009.3.31）

I.　研究活動

1. 第 2 回 IPA 研究助成賞の公募と授与

4 月に提案書の公募を開始し、以下のスケジュールで審査、授与式を行った。

6 月 30 日	プロポーザル提出締め切り 選考委員会で審査
10 月 28 日	受賞者へ結果通知
12 月 11 日、12 日	授与式の実施（第 2 回 IPA 国際ワークショップ開催時）

2. 第 1 回 IPA 研究助成賞受賞者の論文作成および第 2 回 IPA 国際ワークショップでの発表。研究論文集第 1 号発行準備をした。

3. 圧入技術に関する研究マップの見直しと現場計測モニタリング技術のまとめ

3-1. 2007 年度に修正した圧入技術に関する研究マップの見直しを行った。

3-2. 圧入施工中における現場計測モニタリング技術の見直しを行い、第 2 回 IPA 研究助成賞の推薦テーマ選定に活用した。

4. 機械工学・計測工学に関する専門家とのネットワークの拡大

4-1. 計測工学、機械工学関係の専門家とのネットワークを開拓して、研究委員会の小委員会の立上げ準備を行った。

II.　国際会議活動

1. 第 2 回 IPA 国際ワークショップの準備

1-1. ボルトン会長来日時に、第 2 回 IPA 研究助成賞のプロポーザル公募要領、第 2 回 IPA 国際ワークショップの持ち方などについて決定した。（2008 年 4 月 14 日、東京にて）

1-2. 技研アメリカの詫摩氏、Carter 氏、技研シンガポールの Goh 氏が来日時に、第 2 回 IPA 国際ワークショップの持ち方について準備会を持った。（2008 年 9 月 2 日、東京にて）

2. 第 2 回 IPA 国際ワークショップの開催

2-1. 第 2 回 IPA 国際ワークショップを 2008 年 12 月 11～12 日にアメリカ・ルイジアナ州ニューオーリンズで開催した。世界 7 ケ国から約 50 名の学術研究者及び実務技術者が参加した。主な内容は以下のとおりである。

① 第 2 回総会と理事会（事業報告・決算報告、理事の選任等）
② 第 2 回 IPA 研究助成賞授与式と研究計画の発表（5 件）
③ 第 1 回 IPA 研究助成賞受賞者による研究成果論文発表（10 件）
④ 技研製作所とケンブリッジ大学との共同研究成果発表（3 件）
⑤ 最新の圧入技術及びプロジェクトに関する講演（6 件）
⑥ 技研アメリカで施工中の米国陸軍工兵隊のシートパイル圧入施工現場を視察

III. 委員会活動

1. 理事会

1-1. 第 1 回メール理事会を 2008 年 8 月 19 日～9 月 15 日に開催した。
議題は以下のとおり。すべて全会一致で議決された。

第 1 号議案　2007 年度事業報告書
第 2 号議案　2007 年度決算報告書
第 3 号議案　2008 年度事業計画書
第 4 号議案　2008 年度予算書
第 5 号議案　新規会員の承認
第 6 号議案　日本支部の設立

2. 総務委員会

2-1. 第 1 回総務委員会を 2008 年 6 月 24 日にエンジニアリング振興協会で田中委員長他 3 名が出席して開催し、以下の議論を行った。

① ボルトン会長来日時に開催するワークショップの持ち方
② 日本支部設立準備

2-2. 第 2 回総務委員会を 2008 年 9 月 16 日にエンジニアリング振興協会で田中委員長他 3 名が出席して開催し、以下の議論を行った。

① 第 2 回 IPA 国際ワークショップの準備・予算・通訳
② 総会と理事会の議題

3. 研究委員会

3-1. 第 1 回研究委員会を 2008 年 4 月 7 日にエンジニアリング振興協会で多賀谷委員長他 3 名が出席して開催し、以下の議論を行った。

① 第 1 回 IPA 研究助成賞中間報告書フォーマット
② 第 2 回 IPA 研究助成賞応募要領
③ 計測小委員会の設立準備

3-2. 第 2 回研究委員会を 2008 年 8 月 20 日にエンジニアリング振興協会で多賀谷委員長他 3 名が出席して開催し、以下の議論を行った。

① 計測小委員会、機械小委員会の設立準備
② 第 1 回 IPA 研究助成賞受賞者の論文の査読方法

3-3. 第 3 回研究委員会を 2008 年 9 月 9 日にエンジニアリング振興協会で多賀谷委員長他 3 名が出席して開催し、以下の議論を行った。

① 第 2 回 IPA 国際ワークショップのプログラム

② 第 2 回 IPA 研究助成賞の審査方法
③ 第 1 回 IPA 研究助成賞論文の査読方法

3-4. 多賀谷査読委員長、他 5 名の査読委員を決定し、第 1 回 IPA 研究助成賞論文の査読審査を行った。

4. 表彰委員会

4-1. 第 1 回選考委員会を 2008 年 9 月 30 日に東京と高知とのテレビ会議で実施した。
多賀谷委員長他 6 名が出席して開催し、以下の議論を行った。

① 第 2 回 IPA 研究助成賞の審査について
② 第 2 回 IPA 国際ワークショップのプログラムと展示物について

4-2. 第 2 回選考委員会を 2008 年 10 月 10 日に東京と高知とのテレビ会議で実施した。
多賀谷委員長他 9 名が出席して開催し、以下の議論を行った。

① 第 2 回 IPA 研究助成賞の選考のし方について
② その他

4-3. 第 3 回選考委員会を 2008 年 10 月 28 日に東京と高知とのテレビ会議で実施した。
多賀谷委員長他 9 名が出席して開催し、以下の議論を行った。

① 第 2 回 IPA 研究助成賞の最終選考
② 第 1 回 IPA 研究助成賞論文の査読と評価の中間報告

5. 広報委員会

5-1. 第 1 回広報委員会を 2009 年 3 月 13 日に東京と高知とのテレビ会議で実施した。
ホームページの更改のし方等について検討した。

IV. 広報活動

1. ホームページの更新

1-1. 国際圧入学会のホームページに種々の活動に関するコンテンツを追加更新した。

2. 新聞発表

2-1. 技研製作所の支援を得て、第 2 回 IPA 国際ワークショップの報告を中心に、2009 年 1 月 29 日に東京本社、2 月 4 日に高知本社でプレス発表を行った。掲載された主な新聞と雑誌は以下のとおり。（添付資料 1 にて全掲載一覧添付）

＜新聞＞
・日本経済新聞（高知版）　（2009 年 2 月 5 日朝刊）
・日刊建設工業新聞　（2009 年 1 月 30 日）

＜雑誌＞
・土木施工　（2009 年 3 月号）
・日経コンストラクション　（2009 年 2 月 27 日号）
・Engineering News Record　（2009 年 1 月 28 日号）（ニューオーリンズにて取材）

3. 講演活動

3-1. 全国圧入協会の 2008 年度総会において、2008 年 5 月 30 日に奥村事務局長が「国際圧入学会の最近の活動と社会インフラの将来動向」と題して講演した。

3-2. 技研製作所グループの社員に対する広報の一環として、第 2 回 IPA 国際ワークショップの報告会を 2009 年 1 月 29 日に東京本社（62 名参加）、2 月 4 日に高知本社（195 名参加）で、北村名誉会長、田中監事、多賀谷副会長、奥村事務局長によって実施した。このビデオを全国の技研製作所の営業所に配布した。

4.ニュースレターの発行

IPA ニュースレター第 1 号を 2008 年 9 月 1 日に発行して、会員に配布した。

V. 会員サービス活動

1. 会員勧誘活動

技研製作所IPA推進室が主体的に正会員、法人会員の勧誘活動を行った。2009 年 3 月末現在の会員数は以下のとおりである。

正会員	438 名
法人会員	16 社
学生会員	2 名

2. 会員証の発行

全会員に会員証を発行して郵送した。

VI. 支部活動

1. 日本支部の立上げ

日本支部の立上げ準備を開始した。

VII. 技研製作所の IPA 支援活動

1. IPA 推進室の設立

技研製作所内に IPA 推進室が 2008 年 7 月 10 日に新設され、IPA の活動を支援する体制が整った。

2. IPA 推進室と IPA 事務局との連絡会議

IPA 推進室と IPA 事務局との会議を 2008 年 7 月 18 日に東京と高知を結んだテレビ会議で開催した。

以　上

This document was downloaded from www.press-in.org Access regularly to keep you updated

添付資料 1　IPA および圧入に関する掲載記事一覧

＜新聞＞

2009.02.17　建通新聞 中部 / 日刊 （株式会社建通新聞社）

2009.02.15　建設基礎 / 月刊 （基礎ジャーナル社）

2009.02.13　建通新聞 東京 / 日刊 （株式会社建通新聞社）

2009.02.13　建通新聞 香川･高知･徳島･愛媛 / 日刊 （株式会社建通新聞社）

2009.02.13　建通新聞 岡山 / 日刊 （株式会社建通新聞社）

2009.02.12　建通新聞 大阪 / 日刊 （株式会社建通新聞社）

2009.02.06　日刊産業新聞 / 日刊 （株式会社産業新聞社）

2009.02.05　日本経済新聞 四国 / 日刊 （株式会社日本経済新聞社）

2009.01.30　日刊建設工業新聞 / 日刊 （株式会社日刊建設工業新聞社）

2008.05.12　日刊建設工業新聞 / 日刊 （株式会社日刊建設工業新聞社）

＜雑誌＞

2009.04.01　建設機械 2009年4月号（vol.45, No.4）/ 月刊 （日本工業出版）

2009.03.02　基礎工 2009年3月号（Vol.37, No.3）/ 月刊 （総合土木研究所）

2009.02.27　日経コンストラクション 2月27日号（第466号） / 隔週刊 （日経BP社）

2009.02.23　土木施工 3月号 / 月刊 （インデックス出版）

2009.01.28　Engineering News Record / 週間 （マクグローヒル）

This document was downloaded from www.press-in.org Access regularly to keep you updated

第 2 号議案　2008 年度収支計算書

2008 年度（2008.4.1-2009.3.31）

（単位：円）

科　　目	予算額	決算額	差　異	備　考
Ⅰ　事業活動収支の部				
1　事業活動収入				
①　入会金収入				
法人会員入会金収入	600,000	800,000	200,000	8社
②　会費収入				
正会員年会費収入	4,210,000	4,380,000	170,000	438名
法人会員年会費収入	1,800,000	2,100,000	300,000	21口
③　寄付金収入				
寄付金収入	6,000,000	4,974,350	△ 1,025,650	
④　雑収入				
受取利息収入	0	14,050	14,050	
事業活動収入計	12,610,000	12,268,400	△ 341,600	
2　事業活動支出				
①　事業費支出				
研究助成金支出	6,000,000	4,974,350	△ 1,025,650	5グループ
第2回IPA国際ワークショップ	5,470,000	4,744,339	△ 725,661	
会議費用	1,120,000	1,396,847	276,847	
晩餐会費	750,000	606,230	△ 143,770	
ホテル宿泊費	2,000,000	1,446,121	△ 553,879	
事務局旅費	1,000,000	986,871	△ 13,129	
現場見学費用	200,000	71,002	△ 128,998	バス2台
資料等	400,000	237,268	△ 162,732	
第1回IPA論文集印刷代（CD含）	400,000	0	△ 400,000	
第1回IPA論文査読料	200,000	200,000	0	
研究委員会委員謝金	200,000	0	△ 200,000	
現場計測支援	500,000	0	△ 500,000	
②　管理費支出				
IPAウェブサイト管理費	100,000	149,940	49,940	
会員証作成費	50,000	37,170	△ 12,830	
印刷代	50,000	51,450	1,450	
国内外送料	100,000	122,977	22,977	
通信費	100,000	48,685	△ 51,315	
③　国内交通費				
事務局員	300,000	326,356	26,356	
研究委員会委員	300,000	88,490	△ 211,510	
④　支部活動費	800,000	0	△ 800,000	
事業活動支出計	14,570,000	10,743,757	△ 3,826,243	
事業活動収支差額	△ 1,960,000	1,524,643	3,484,643	

（単位：円）

科　　目	予算額	決算額	差　異	備　考
Ⅱ　投資活動収支の部				
1　投資活動支出				
①　固定資産取得支出				
定期預金支出	0	4,000,000	4,000,000	
投資活動支出計	0	4,000,000	4,000,000	
投資活動収支差額	0	△ 4,000,000	△ 4,000,000	
Ⅲ　予備費支出				
予備費	100,000	100,226	226	
研究予備費	2,000,000	0	△ 2,000,000	
当期収支差額	△ 4,060,000	△ 2,575,583	1,484,417	
前期繰越収支差額	4,579,900	4,579,900	0	
次期繰越収支差額	519,900	2,004,317	1,484,417	

監査の結果、重要な点において適正に表示しているものと認める。

2009年　月　　日

監事 田中孝明 印

監事 ADRIAN HYDE 印

In our opinion, the above statement of accounts are presented fairly in all material respects.

14/7, 2009.

Auditor

Auditor

This document was downloaded from www.press-in.org Access regularly to keep you updated

第 3 号議案　2009 年度事業計画書

2009 会計年度 （2009.4.1 - 2010.3.31）

I.　研究活動

1. 第 2 回 IPA 研究助成賞受賞者に対する研究支援
   - 圧入技術の専門家を技術アドバイザーとして指名し、受賞者の研究を支援する。
2. 正会員、法人会員等から圧入施工現場の計測に関するプロポーザルがあった場合、計測業務を積極的に支援
3. 研究委員会、日本支部において研究成果発表会などを開催し、圧入技術の普及・啓蒙に努める。
4. 第 1 号 IPA 研究論文集の普及（国立国会図書館、国内外大学、関連する学協会に配布）
5. 第 3 回 IPA 研究助成賞応募要領の作成（研究委員会で実施）
6. 「圧入設計指針」「圧入施工指針」を作成する委員会を新規に立上げ、原案を作成する。

II.　国際会議活動

1. 第 3 回 IPA 国際ワークショップを 2010 年 10 月にアジアで開催するための準備
   - アジアにおける会場、ワークショップの内容、見学会等について検討
2. 第 4 回 IPA 国際ワークショップの候補地の検討
3. 他の学協会との連携強化
   - ASCE、DFI 等と情報交換

III. 委員会活動

1. 総務委員会の活動を充実させ、財政基盤を強化し、法人格を得るための準備を行う。
2. 研究委員会に小委員会を複数立ち上げ、研究活動を活発にする。計測小委員会、機械小委員会は早急に立ち上げる。
3. 広報委員会メンバーを正式に決定し、ホームページの充実を含めた広報活動を活発に行う。

IV. 広報活動

1. ホームページの更新を速めて、会員に活動を早く知らせるようにする。また、会員のみのサイト内容を検討し、実施する。

2. 新聞・雑誌への発表を積極的に実施する。

3. 全国圧入協会総会における講演等、国際圧入学会の活動を紹介する講演活動を実施する。

V. 会員サービス活動

1. 会員勧誘活動を積極的に行う。特に、法人会員を拡大する活動を充実する。

2. 会員証を更新する（21 年度の会員証から有効期限記載について要検討）。

VI. 支部活動

1. 日本支部を立ち上げて会員総会を開催し、日本国内における研究に関する情報交換を充実させる。

2. 他の国にも支部を立ち上げる活動を行う。

以　上

This document was downloaded from www.press-in.org Access regularly to keep you updated

第 4 号議案　2009 年度収支予算書

2009 年度（2009.4.1-2010.3.31）

（単位：円）

科　　目	2008年度決算額	予算額	増　減	備　考
Ⅰ 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
① 入会金収入				
法人会員入会金収入	800,000	300,000	△ 500,000	3社
② 会費収入				
正会員年会費収入	4,380,000	4,200,000	△ 180,000	420名（14名減）
法人会員年会費収入	2,100,000	2,100,000	0	21口
③ 寄付金収入				
寄付金収入	4,974,350	0	△ 4,974,350	
④ 雑収入				
受取利息収入	14,050	10,000	△ 4,050	
事業活動収入計	12,268,400	6,610,000	△ 5,658,400	
2 事業活動支出				
① 事業費支出				
研究助成金支出	4,974,350	0	△ 4,974,350	
第2回IPA国際ワークショップ	4,744,339	0	△ 4,744,339	
第1回IPA論文集印刷代（CD含）	0	0	0	
第1回IPA論文査読料	200,000	0	△ 200,000	
第2回IPA研究助成賞受賞者研究支援	0	700,000	700,000	
第3回IPA国際ワークショップ準備	0	700,000	700,000	
研究委員会委員謝金	0	200,000	200,000	
現場計測支援	0	1,000,000	1,000,000	
② 管理費支出				
ウェブサイト管理費	149,940	150,000	60	
会員証作成費用	37,170	60,000	22,830	
印刷代	51,450	70,000	18,550	
国内外送料	122,977	300,000	177,023	
通信費	48,685	100,000	51,315	
③ 国内交通費				
事務局員	326,356	500,000	173,644	
研究員会委員	88,490	300,000	211,510	
④ 支部活動費	0	800,000	800,000	
事業活動支出計	10,743,757	4,880,000	△ 5,863,757	
事業活動収支差額	1,524,643	1,730,000	205,357	

（単位：円）

科　　目	2008年度決算額	予算額	増　減	備　考
Ⅱ 投資活動収支の部				
1 投資活動支出				
① 固定資産取得支出				
定期預金支出	4,000,000	0	△ 4,000,000	
投資活動支出計	4,000,000	0	△ 4,000,000	
投資活動収支差額	△ 4,000,000	0	4,000,000	
Ⅲ 予備費支出				
予備費	100,226	100,000	△ 226	
研究予備費	0	1,000,000	1,000,000	
当期収支差額	△ 2,575,583	230,000	2,805,583	
前期繰越収支差額	4,579,900	2,004,317	△ 2,575,583	
次期繰越収支差額	2,004,317	2,234,317	230,000	

This document was downloaded from www.press-in.org Access regularly to keep you updated

第 5 号議案　理事選任

理事選任

I.　理事および監事の再任

1. 定款第 15 条に基づき、理事および監事の新任および再任をする。
　任期は 2009 年 4 月 1 日から 2011 年 3 月 31 日とする。

理事会

同一役職内では英語姓のアルファベット順に掲載

職　務	就任者	所属団体と役職		
会長	マルコム・ボルトン	イギリス	ケンブリッジ大学	教授
副会長	ロバート・ホルツ	アメリカ	ワシントン大学	教授
副会長	多賀谷　宏三	日本	高知工業高等専門学校	名誉教授
副会長	張　利民（ジャン・リミン）	香港	香港科学技術大学	准教授
事務局長	奥村　忠彦	日本	（財）エンジニアリング振興協会	研究理事
理事	ピーター　R. カリ	アメリカ	前・米国陸軍工兵隊	
理事	レオ・ヒューバート・ジュニア	アメリカ	前・米国陸軍工兵隊	
理事	飯塚　武彦	日本	（社）日本機械学会	フェロー
理事	日下部　治	日本	東京工業大学	教授
理事	バリー・リハン	オーストラリア	西オーストラリア大学	教授
理事	前川　宏一	日本	東京大学	教授
理事	曽我　健一	イギリス	ケンブリッジ大学	教授
理事	フリッツ・ファン・トゥール	オランダ	デルフト工科大学	教授
理事	デイヴィッド・ホワイト	オーストラリア	西オーストラリア大学	教授
監事	エイドリアン・ハイド	イギリス	シェフィールド大学	教授
監事	田中　孝明	日本	（株）技研製作所	常務取締役

添付資料 2　理事候補略歴

This document was downloaded from www.press-in.org Access regularly to keep you updated

添付資料 2　理事候補略歴

履 歴 書

08 November, 2008

ピーター R. カリ 博士, 地盤工学コンサルティング

専攻　地盤工学

学歴
1995 年　テュレーン大学　土木環境工学専攻　博士
1977 年　テュレーン大学　土木工学専攻　修士
1973 年　テュレーン大学　土木工学専攻　学士

登録　専門技術者（技術士） – ルイジアナ州

職歴の要約

地盤工学の分野で 35 年以上の経験を持ち、ダム、堤防、防潮壁、洪水対策構造物などの浅い基礎や深基礎に従事してきた。その中で、杭基礎の評価、斜面安定性と浸透流の解析、地盤改良、水平傾斜掘削、一般的な地盤工学の設計案件などに携わり、特に地下調査や掘削・サンプリング技術、現場試験及び実験室試験などは特に経験豊富である。

2007 年に退職するまで、米国陸軍工兵隊ニューオリンズ地区でダム・堤防・運河部門のチーフ、対策本部とハリケーン対策事務所の上級地盤工学技師を歴任した。また、同地区の浸透委員会でダム安全計画マネージャーを務め、現在は、米国陸軍工兵隊ニューオリンズ地区とハリケーン対策事務所での地盤工学コンサルタントである。

テュレーン大学の土木環境工学部では、非常勤教授を務めた。また、米国土木学会ニューオリンズ支部では地盤工学委員会の会長として理事を務めた。2005 年にストックホルムで開催された国際会議ディープミックス 2005 では、実用状態報告書を配布した。2006 年には、DFI 深基礎協会のハル・ハント賞を受賞し、米国土木学会ニューオリンズ支部からは 2002 年に顕著な土木エンジニア賞を受賞している。発表した技術論文は数多く、様々な地盤工学案件についての講義も行っている。

職歴

現在-2007　シーレベル・エンジニアリング LLC（合同会社）　社長
米国陸軍工兵隊ハリケーン対策事務所、米国陸軍工兵隊ニューオリンズ地区、同ジャクソンビル地区、及び民間企業に向け、専門地盤工学の設計業務を行う。

2007-2006　米国陸軍工兵隊　ハリケーン対策事務所　技術支援支部　次席
ハリケーン防護堤防の復旧において、設計、不動産、環境面から専門技師チームを運営し、堤防と防潮壁に関する方針と再設計基準を確立した。

2006-2005　米国陸軍工兵隊　対策本部　上級地盤工学技師
ハリケーン防護堤防や主たる洪水対策構造物の設計と建設のため、設計会社と社内の人材を指揮した。

2005　米国陸軍工兵隊　ニューオリンズ地区地盤工学支部　主任代理
ニューオリンズ地区で、42 名の社内専門技師を指揮し、地下の調査と試験、地盤工学及び土質環境の設計を行った。

2006-1997　米国陸軍工兵隊　ニューオリンズ地区地盤工学支部　ダム・堤防・運河部門チーフ
ニューオリンズ地区で、16 名の社内専門技師を指揮し、地下の調査と試験、地盤工学及び土質環境の設計を行った。

1997-1979　米国陸軍工兵隊　ニューオリンズ地区地盤工学支部　ミシシッピ川設計　チーフ
ニューオリンズ地区で、6 名の設計技師を指揮し、ミシシッピ川、アチャファラヤ流域、ハリケーン防護システムなどの堤防、護岸、構造物、環境復旧の設計を行った。

1979-1973 米国陸軍工兵隊 ニューオリンズ地区地盤工学支部 地盤工学技師
構造物、堤防、運が、環境復旧などの洪水対策案件の設計を行った。

所属

米国土木学会（ASCE）、 Association of State Dam Safety Officials（ASDSO）、Louisiana Engineering Society、Society of American Military Engineers

論文（抜粋）

Adams, T., Filz, G., Cali, P., and Woodward, M., Deformation and Stability Analyses of a Pile Supported T-Wall with Deep Mixed Shear Panels in Plaquemines Parish, Louisiana, in Proceedings of GEDMAR08, Nanging, China, June 2008

Adams, T., Filz, G., Cali, P., and Woodward, M., Stability Analyses of a Levee on Deep-Mixed Columns, Plaquemines Parish, Louisiana, GeoCongress08, New Orleans, Louisiana, March 2008

Cali. P.R., Hal Hunt Lecture 2006, Communicating Risk – Post Katrina, in Deep Foundations Institute Journal, Spring 2007, and presented at 31st Annual Conference on Deep Foundations, , Washington, D.C., Oct 2006

Bruce, D.A. and Cali, P.R., Design of Deep Mixing Applications – State of the Practice Report, in Proceedings of Deep Mixing ’05, Stockholm, Sweden, Sept 2005

Cali, P.R., et al, Levee Stability Application for Deep Mixing – Design for Full Scale Test Section Using Dry Mixed Soil Cement Columns, in Proceedings of Deep Mixing ’05, Stockholm, Sweden, Sept 2005

Cali, P.R., et al, Levee Stability Application for Deep Mixing – Conclusions from Test Section Using Dry Mixed Soil Cement Columns, in Proceedings of Deep Mixing ’05, Stockholm, Sweden, Sept 2005

Cali, P. R. and Woodward, M., Levee Stability Application for Deep Soil Mixing, USACE Infrastructure Conference, Las Vegas, NV, May 2003; and at Louisiana Civil Engineering Conference, New Orleans, LA, Sept 2003

Cali, P. R., Soil Reinforcement Using Lime Cement Columns for the IHNC Lock Levees, Current Trends in the Engineering Design and Evaluation of Navigation Locks Workshop, Vicksburg, MS, Mar 2001

Cali, P. R., Horizontally Drilled Pipeline Crossings Beneath Flood Protection Levees, USACE Geotechnical Conference, Portland, Oregon, August 1999

Cali, P. R., Design and Construction of Flood Control Dykes, United Nations Development Program in Vietnam, New Orleans, La., Feb 1998

Cali, P. R., Flood-related Geotechnical Problems in NOD, Mississippi Valley Division Symposium, St. Louis, MO., Feb 1998

Cali, P. R., Effect of Vibrations on Point Bar Sands, ASCE La. Section Annual Meeting, 1997

Cali, P.R., Stabilization of a Creeping Slope Using Soil Nails, ASCE Journal of Geotechnical Engineering, Special Publications No. 59 & 61, ASCE, N.Y., N.Y., Nov 1996

Cali, P. R. and Bhattacharya, S. K., Degradation of PCP During Acidogenesis, In Proceedings of Third International Symposium on Bioreclamation, Battelle Press, April 1995

Cali, P. R., Riverfront Development, American Society of Civil Engineers N.O. Branch, Geotechnical Special Session, N.O., La., Oct 1994

Cali, P. R., Stability of the Mississippi River Levee System, Louisiana Engineering Society Annual Meeting, New Orleans, La., Apr 1982

This document was downloaded from www.press-in.org Access regularly to keep you updated